

「広告企画」エプソン・ガジェットプリンター「SC-F2150」を導入して何が変わった？

最新導入事例

SC-F2150+創意工夫で

濃色プリントを安定&効率化する



成13年に設立された(有)タツ

プは、看板や大判サイン出力をはじめ、カラッピン、ス
テッカー、マグネットシート、マ
グカップ、缶バッジなど、様々な
オーダーグッズの製造を主力とし
ている。ウエアプリントをはじめ
たのは2011年頃。必要な資機
材が揃っていたため、「技術的に
可能」と判断。2013年から本
腰を入れて取り組み、その際導入
したのがエプソン販売(株)のゲー
メントプリンター「SC-F200
0(以下F2000)」だ。

「国内メーカーの中でも安心して
るエプソンブランドを選んだ。価
格が手頃で、メンテナンスやサポ
ートが充実していたことが決め手
でした」と同社の網嶋清志社長。

以降は白Tシャツを中心に、枚
数をこなすスピード注文に活用。
今年で導入5年目を迎え、
「買い替えを検討していましたが、

他社機は機械サイズが大きく、条
件に合わなかった。そのタイミン
グで新型機「SC-F2150(以
下F2150)」が発売。稼働保証
保守5年がセットになったキャン
ペーンモデルがあったことや、手
が汚れず、手軽に手間なく扱える
ので、やはりエプソンを選んだ」。

カタログでは分からない 数多くの改善点

F2150は今年3月にエプソ
ン販売(株)が発表したばかりの新型
機。特筆すべきは印刷速度。濃色
ボディならF2000の約1.3
倍、淡色ボディなら約2倍の速度
でプリント可能。白インクが高速
&高濃度でプリント出来る「ダブ
ルストライク印刷」モードが追加
されたほか、ボディのセットにフ
レーム固定方式と布ブラテン方式
の2つを用意。バレンを使うこと
でセット時間を短縮した。メンテ

ナンスも大幅に改善。吸引キャッ
プの清掃を自動化し、手動洗浄が
一切不要になった。網嶋社長は、
「F2150にはカタログスペック
だけではわからない改良点が数
多くある。従来の機能がブラッシ
ュアップされ、大幅に使いやすく
なりました」。

網嶋社長が最初に挙げたポイン
トは、「メンテナンスとクリーニ
ングのタイミング」。

「メンテナンスの手間がなくなっ
たのが有難い。電源オフにするだ
けで済みます。また、ヘッドワイ
ピングや白インク循環のタイミン
グがよく考えられていると感じま
した。クリーニングはプリント直
後。このタイミングなら、熱ブレ
スなど他の作業をすることが多い
ので時間のロスがない」。また、
「小サイズのインク滴追加によっ
て、淡い表現やグラデーションの
表現力がアップしたと感じた。黄



SC-F2150を操作する網嶋社長。F2150にはボディをフレーム

で固定するタイプと、滑りにくい布を張った布ブラテンの2タイプがある。濃色ボディを効率よくプリントするにはどちらの
ブラテンが適しているのか、網嶋社長は検証を続けている。同社が導入したSC-F2150は、5年間の稼働保証保守
が付いているキャンペーンモデル。

①プリント後、薬剤散布用の噴霧器で水をかけ、水を吸い取る掃除機で水分を取り、干して乾燥させる。前処理剤の跡を軽減するための手法だ。②トートバッグを効率よくプリントするために自作した治具。③～⑤は濃色プリントを効率よくこなすための手法。③はパンチングメタルに水はけのいいスポンジを貼りつけた治具。ここにボディをセットし、そのまま④自動前処理剤塗布機にセットし、前処理剤を噴霧。そのまま熱プレス機で前処理剤を定着させ、⑤SC-F2150に治具ごとセットしてプリント。ボディを着脱する手間が省けて効率よくプリントできる。この手法で上手くプリントできるか、現在は最終調整の段階に入っているようだ。



⑥F2150でプリントしたサンプル。トートバッグは生成り色ではなく、プリントが映えるように白度の高い素材を選んでいる。



同社のウェアプリント注文はB to Bが中心。漫画家やイラストレーターなどからの注文が多く、「自分の描いた漫画の好きなページを読者に選んでもらい、それをTシャツにプリントするという仕事がありました。何人かの漫画家が集まり、最終的には絵柄の違う

創意工夫で濃色Tシャツプリントを効率化したい

色と黒の混色デザインは滲みが改善されている。プリント速度の向上も実感しています。4パスプリントだと熱プレスが間に合わなくなるほど」と、綱嶋社長はF2150を高く評価する。

「最初にカタログを見た時はF2000とそれほど変わらないと思いました。実機を見るとカタログに書かれているスペック以上にいい機械です」(綱嶋社長)。

「自分は淡色ボディへのプリントが主力だったが、白を早くプリントできるF2150があることで、積極的に濃色ボディにも挑戦している。そのために前処理剤塗布機を購入し、独自の治具も開発した。それらを使ってボディのセットから前処理剤塗布、熱プレス乾燥、プリント、仕上げ、前処理剤の軽減方法を研究。安定した仕上がりで効率の良い濃色ボディプリントができるか、試行錯誤を繰り返している(写真上参照)。

F2150の実力を引き出すための創意工夫は、間もなく実を結ぼうとしている。



(右)タッブ 綱嶋 清志 社長

注文が2000枚ほど集まった。こうした仕事で口コミで拡がったのか、漫画やアニメに関連した、50〜60枚のまとまった注文が多いそうだ。綱嶋社長は、

「今後はエンドユーザーからの注文を増やしたい。しかし、最近パソコンを持っていない層が増えたため、デザイナーが作れない。そこをどうクリアしていくかが課題になる」。

これまでは淡色ボディへのプリントが主力だったが、白を早くプリントできるF2150があることで、積極的に濃色ボディにも挑戦している。そのために前処理剤塗布機を購入し、独自の治具も開発した。それらを使ってボディのセットから前処理剤塗布、熱プレス乾燥、プリント、仕上げ、前処理剤の軽減方法を研究。安定した仕上がりで効率の良い濃色ボディプリントができるか、試行錯誤を繰り返している(写真上参照)。

F2150の実力を引き出すための創意工夫は、間もなく実を結ぼうとしている。

SureColor ガーメントプリンター「SC-F2150」基本スペック

標準価格：1,480,000円 ※ホワイトカラーモード、高速カラーモード共に。

今年9月末まで、本体に5年の稼働保証保守(標準価格70万円)をセットにしたキャンペーンモデルを198万円(セットで20万円引き)で設定している。



【問い合わせ先】
エプソン販売(株) 購入サポート窓口 ☎050-3155-8380
販売特約店の詳細はエプソンのホームページに掲載。
URL <http://www.epson.jp/surecolor>

※表記価格は全て税別です。

解像度：最大1440×1440dpi
プリント速度：ホワイトインクモード・濃色時 約87秒、
淡色時 約27秒
高速カラーモード・淡色時 約15秒
印刷媒体：厚み・最大25mm、重量・最大1.5kg、
素材・綿の混紡率100%～50%
印刷可能範囲：ブラテンL (406×508mm)
ブラテンM (356×406mm)
ブラテンS (254×305mm)
ブラテンXS (178×203mm)
ブラテンポロ・ジッパー (356×406mm)
ブラテン袖 (101×101mm)

インク：UltraChrome DGインク (エコバースポート
認証取得)：各色独立インクカートリッジ
電源電圧：AC100V、50/60Hz
消費電力：最大 約55W、スリープモード時 約10W
外形寸法：W985×D1425×H490mm
重量：約85kg
消耗品：インク各色600ml (23,400円)、インク
各色250ml (11,800円)、クリーニング
カートリッジ700ml (2,000円)、前処理
剤20ℓ (68,000円)、メンテナンスキット
(3,300円)、ヘッドクリーニングセット
(9,500円)